

# ゆうこうの家通信 Vol.5

発行：  
発達・心理相談センター  
「ゆうこうの家」  
名古屋市天白区表山1-1753-2  
電話 052(880)7704

「ゆうこうの家」は、発達障がいを中心とする障がいや、こころの問題をもつ人々に対し、療育やカウンセリングを中心とした支援活動を行い、より健やかで豊かな成長と、社会への適応を支援することを目的としています。

また、「ゆうこうの家」通信は職員や利用者の家族の編集・取材・協力により不定期に発行しています。

日々の療育・イベントの様子、また人には言えない(?)本音など、利用者の家族ならではの視点で編集しています。利用者の方、これから御利用を考えいらっしゃる方の参考になりましたら幸いです。

「ゆうこうの家」は、年間にいくつものイベントを行っています。2013年もたくさんのイベントがありました。それらをご紹介していきます。

## 木馬お泊まり会

ゆうこうでは家族から離れ、家族ではない集団の中での生活の練習を行っています。

  
家から遠く離れた不便な場所での「合宿」もあれば、比較的家に近い「お泊り」もあります。  
まず、トイレも食事も冷暖房も布団も整っていて、表山クリニックにも近い喫茶店木馬の2階で「お泊り」からご紹介しましょう。

小学生を対象としたこれは毎年夏の7月の恒例行事となっています。

今回は、1泊2日を続けて2回実施しました。そのため、中には2泊3日と少し長めに、お泊まり会に参加する子どもいました。

お泊り会と言ってもただ遊ぶだけでも、勉強漬けなわけではありません。子供が楽しいと感じてくれそうな実験や工作、ゲームなどを毎回先生たちが知恵を振り絞って用意しています。

まず、実験教室。過程の途中で失敗しても、最後までやり通すことを学びます。

今回はドライアイスから取り出した二酸化炭素を使ったシャボン玉づくりに挑戦。シャボン玉がすぐに割れるのではなく、ピョンピョンと少しはずんだ後に、中から白い二酸化炭素の気体がふわっと出てきます。日常ではなかなか



見られない光景に、子どもたちの目がキラキラと輝いていました。

次は入浴剤作り、ラムネ作りです。ラムネは作った後に、みんなで試食です。シュワシュワする感覚は成功！…でしたが、実は思った以上に酸っぱかったのです。子ども(+H先生)の口には合わず、シュワシュワ感以上に酸っぱさが際立ったものになりました。

何人の大人が知恵を振り絞って考えて用意しても、毎回大成功、というわけではなく、なにができるかな？と想像してわくわくさせるのが狙いだったりします。また大人



の指示どおりにしても失敗はあるし、失敗しても怒らない、人のせいにしない、ことを学んでいってほしいですね。

夜には、これまた恒例の花火とスイカ割りです。毎年思うことですが、最近は住宅環境のせいか、家庭でも花火をする機会が減ってきてているようで、手持ち花火に火をつけてもらったり、他の人から火をもらうことに戸惑う様子が見られる子どもが多く見られます。こういう機会に楽しみながら学ぶのも大事なことだと思います。

そして、こちらも恒例の地下鉄に乗ってのプールへお出かけ。

1日目は、雨だったため、室内プールに。みんなで傘をさし、カッパを着て向かいました。親が付いていなくても、電車に乗れますよ。2日目は、雨もやんだため別の屋外プールに行きました。2日3泊参加した子どもは、1日ずつ違う場所のプールに行けたので、新鮮で楽しかったようです。



# 若狭湾キャンプ

こちらは小学高学年から中、高校生対象の合宿です。健康面、精神面から親から離れて合宿には不安、という親御さんもいらっしゃるでしょうが、毎回、医師の魚住先生が同行してくださるので、そこは大丈夫です。

さて、前回に引き続き、福井県の国立青少年自然の家をお借りしての、若狭湾を満喫です。今回も泳いで漕いでトランプしての宿泊でした。



1日目の野外炊飯のメニューは、豚丼とみそ汁。薪に火をつけての本格的な飯ごう炊飯です。火を絶やさないようにするのは大人でも難しいもの。子どもたちは汗だくになりながら、火の番をこなします。

が、昼間に目一杯泳いだ後の野外炊飯のため、毎回、疲れてぐったりする子ども続出です。もしかしたら今回で最後になりそう？

その後のキャンプファイヤーでは、数名ずつで出し物を披露。小学生の女の子たちは、なぞなぞを出してくれたり、中学生の男の子は、ゴルデンボンバーの歌を振付つきで熱唱してくれて、大いに湧かせてくれました。



2、3日目の朝礼では、

各自が朝のスピーチや団体紹介、準備体操の見本などを行い、皆何かしらの役割をしっかりと果たすことができていました。他の団体に負けず劣らずのできばえでしたよ。

2日目の午前、こちらは来年もなくならない鉄板行事のカッタ体験（30人乗りの船で、2人で1本のオールを持って漕いでいく）です。前回参加した子ども、スタッフは、2回目ということで、少し慣れた面もありましたが、やはり、ぐったりな子ももちろんいました。（ちなみに、H先生とM先生は6回目でカッター漕ぎのベテランです！もう趣味の域です！？）



3日目は、これも前年に引き続き、若狭塗り箸づくりです。これは、結構、大人が真面目に楽しんでしまいます！



木の箸を包んだ貝が薄くなるまでせっせと貝を磨いて磨いて、磨きまくるのですが…。木が露出してしまうまで磨いてしまうこともあります、それはそれで味のあるお土産になるのです。

人と協力して食事を作り、片付け、街中では見られない大きな火を前に、自分の考えた出し物で人を笑わせ、ふかふかのベッドではないところで他人と眠り、テレビゲームではなく自然と遊ぶ。毎日何気なく使っている物を自分で作る。きっと大切な思い出と体験になったでしょう。

## 就労実習



25年度も、特別支援学校、特別支援学級のお子さんを中心とした就労実習を行いました。



これはすぐに就職につながる作業とは限りませんが、お遊びではなく、指示された作業というものに一定時間集中してできるようになる練習です。6月、11月、2月と計3回実施しました。今年度は、最初から、作業内容に応じたグループに分けておき、午前と午後の2つのグループでの実施

です。

午前のグループは、各々が出来る作業に取り組みました。50分×3セットの作業です。ほとんどの時間を椅子に座って、黙々と作業を進められる子どももいれば、長時間の作業に時折、眠そうな顔になってしまう子どももいます。

しかしやはり、回数を重ねている子どもは、集中して取り組むことができる時間が長くなっているように思われます。

午後のグループは、小集団での調理活動（お菓子作り）、バレッタ作り、ストラップ作り、ミサンガ作りなど、これらはより複雑な工程のある作業であるにも関わらず、ちゃんと取り組むことができる子どもが多くいました。自分が作ったお菓子やバレッタ、ミサンガなどは、頑張ったご褒美として持ち帰って、お母さんたちに披露したそうです。そしてたくさんたくさん褒めてもらつたようです。



3時間の実習が終わると、子どもたちに疲れた様子が見られます、午後のグループが終わると、スタッフの方も、さすがに毎回ぐったりになってます。子どもと同様に、大人も長丁場は疲れるものですね。

# 女子会



ゆうこうの家を訪れる子どもたちは、男の子に比べて女の子の割合が極端に少ないので実情です。男子に比べ、女子の方が社交性があるからとも言われていますが、だからと言って決して放置してはならない問題です。

とは言え数の割合のため、グループ活動などになると、どうしても10名に女の子1、

2人ぐらいになり、女の子が参加を躊躇することがあるようです。そのため、もっと女の子が参加しやすいような活動を考え、25年度の新しい行事として、女子会を10、1月に開催しました。

1回目の10月は6名の女の子が参加して、スイートポテト作りなどに挑戦！さつまいもを潰すのが大変でしたが、皆で協力して作り上げることができました。その他にも、テーブルマナー講座として、食べ物の分け方や食べ方なども学びました。最後は、作ったお菓子を食べて美味しく楽しく終了。修了証と今回学んだ表をいただいた女の子たちでした。

2回目の1月は、チョコチップパウンドケーキ作りに挑戦です。さすが女の子たち、パウンドケーキを入れるお洒落な箱作りにもみんなが夢になりました。それぞれ、とても可愛らしい入れ物を作ることができて、大切に持



ち帰ったようです。また、今回のマナー講座では、女子ならではの、身だしなみについて学びました。一人ずつ、鏡とクシを手に取り、髪のとかしかたから、顔や服装の身だしなみのポイントについて、一つずつチェックしていきます。

ゆうこうの家は、女性スタッフが多いので、お菓子作りや小物づくりなど、スタッフの女子力を大いに活用することができました。

# 中高生交流戦

夏休みと冬休みに、中学生と高校生合同で、卓球大会を行っています。以前は、高校生と中学生では体格に差があるということでハンディ戦でしたが、最近は中学生もめつきり強くなってきたこともあります。その結果、ダブルス戦とシングルス戦を行うと、ダブルス戦は中学生が優勝することもしばしば起こるようになりました。これは高校生は、体が大きいからダブルスにすると、狭くて動きづらいのも関係しているとの声も……。元々の運動神経の違い、とは断定しないでおきましょう(笑)。

ゆうこうに所属している高校生は、3年生が多く、ついに高校を卒業する子どももでてきました。社会に出る子、進学する子それぞれですが、ここが一つの区切りとなります。一方で、これまでの繋がりを今後、どういう形で残すことができるか、どういう形で手助けすることができるかななど、検討していくべき今後の課題が多くあるように思われます。

また、卒業していく高校生たちのその後の進路の結果が、みなさんの参考になれば幸いです。



# 教育講演会

11月3日に、星ヶ丘マタニティ病院小児科副院長の井口敏之先生をお招きして、『発達障害児の理解と対応』という演題で講演をしていただきました。小児科医の立場から、障害についての分かりやすい講義をしていただきました。



また、障害の有無に限らず、前向きな子育てについて、以下の5つの点についてお話しをしていただきました。

- ① 安全に遊べる環境づくり
- ② 積極的に学べる環境づくり
- ③ 一貫した分かりやすいしつけ
- ④ 適切な期待感を持つ
- ⑤ 親としての自分を大切にする

講演後のフロアからの質問に対して、非常に具体的なアドバイスをいただくことができ、アンケート結果では、分かりやすい講演会だったというお言葉をたくさんいただきました。

## 保護者交流会

年に2度ほど、ゆうこうに通っている子供たちの親御さんたちが集まっての交流会があります。

前半後半と時間を区切り、親たちだけで話し合います。

前半は居住地域ごととか、子どもの年齢ごととかのグループに分かれてと、その時々で異なりますが、まずは自己紹介から。

毎回のことですが、緊張してうまく話せない親御さん、今までの経緯を話しているうちに、感極まってしまう親御さんがいらっしゃいます。大丈夫です、その場にいるみなさんはお気持ちを十分理解、共有できる方ばかりです。制限時間を守った上で、どんどん吐き出してください。鬱のお母さん、睡眠障害のお母さん、たくさんいらっしゃいます。同じ仲間が、ここにはいるのです。

また、最近ではご夫婦揃っての参加も多く見られるようになってきました。大変喜ばしいことです。

お母さんは学校生活の心配、お父さんは社会や会社に入った時の心配といった感じが多いようですね。

父親同士でお話されている方もいらっしゃいます。ぜひ、これからもお父さんの参加をお願いします。

後半は幼稚園、小学校、中学高校と、学校について知りたい親御さんが、経験のある親御さんの元に集まるという形がほとんどです。

「初めて親から離れる幼稚園が心配」「公立でいいのか」「私立中学、私立高校はどういうものか」

どれも経験のある親がいますので、お尋ねください。ただ、今年卒業の高校生を持つ親は、子供が私立中学に入つたのはもう6年近く前で、現在とはシステムが変わっていて参考にならない場合が増えてきた感じがします。その辺はご了承の上、ご参考までに……。

公立中学、公立高校は教師がよちゅう入れ替わりますが、私立は10年20年教師が動かないことがほとんどということです。中学から私立に入れば、卒業まで中高ほとんどの教師が子供を6年間見て知ってくれる状況になる利点はあると思われます。

問題は「お金」ですね。

私立中学は私立大学を除けば一番お金がかかります。特別進学コース（優秀クラス）の学費免除を受けない限り、月4万程度の出費は覚悟してください。

私立中学から付属の高校、大学への進学は？という質問

も毎回多く聞かれます。もちろん付属高校、大学へ進学する場合も「受験」はあります。学校も受験へ向けて受験勉強はさせます。しかし、ほぼ問題なしと言つていいでしょう。特に付属高校への進学は無理だったという話は聞いたことがありません。出席日数が足りない場合は留年ですが。

公立中学、公立高校ですが、こちらは私立に比べ、教師が本当に多忙であるという事実を理解してください。つまり、ひとりのお子さんだけに構つていられない場合がほとんどのようです。また、教師によって発達障害についての理解度が全然異なっている場合があります。それでも看過できない問題が発生した場合は、担当に、学年主任に、教頭、校長へ遠慮なく直訴しましょう。それでも動いてくれなければスーツを着たお父さんの出番です。

さて、高校の後の進路ですが、これはまだ参考資料がほとんどないのが現状です。高校卒業で就職の場合、商業ではなく普通進学コースだと、企業からの求人募集はまずないと言っていいでしょう。厳しい不況に加え、（付属）大学、専門学校に進学、または縁故採用がほとんどだからです。進学にしても私立大学専門学校なら、またまた莫大なお金がかかることを覚悟しておきましょう。

そしていつかは社会に出ます。その時のために、高校卒業後、時間と余裕があればアルバイト等経験しておくのもお勧めです。

保護者交流会を行うと、まわりの理解がないため、心が折れそうな状態のお母さんがたくさん見られます。折れる前に是非先生に相談してください。御要望があれば、お話を聞くことしかできませんが、先輩親が参上することもあります。

## 「ゆうこうの家」代表挨拶 魚住君枝子

ゆうこうの家便りNO.5おかげさまでやっと発行です。理想は年2~3回発行ですが、時はあつという間に過ぎ、気がつけばはや年度末。時の感覚が麻痺しているのでしょうか。



先日ADHDの講演会がありました。早期からの適切な支援が脳の発育を促すということでした。近年、脳の画像診断などで、強いストレスが脳の発育を遅らせることが分かつきました。ストレスホルモンが神経細胞にダメージを与えるのです。逆にリラックスと生き生きした心と体の活動は、脳の血流を良くして健康な脳を作ります。

オリンピックの浅田真央さん。諦めずに自分を信じて決めましたね。自分を信じ、お互い信じあえる関係を作り、支えあって子育て（個育て）を楽しみましょう。それが自然に親育ちにもなるでしょうから。